

札幌市立桑園小学校の取組

(<http://www.soen-e.sapporo-c.ed.jp/>)

1. 学校の実態・地域性等

都心に近く校区内に知事公館や近代美術館等があるにもかかわらず、静かな地域である。けれども、今年度の新入生が180人以上入学するなど、マンションの建設に伴い人口が急激に増えている地域でもある。一方で、古くから桑園地区に住んでいる方も多く、愛校心や郷土愛をもち、協力的であり学校と地域との結びつきが強い。また、学校への期待感も大きく、常に学校に注目している人が多い地域である。

2. 道徳教育全体計画（詳細別紙1参照）

学校における道徳教育が、全教育活動が有機的に関連し合って進められるように、道徳教育の基本方針である全体計画を作成している。作成することによって、道徳教育の要として、道徳の時間の位置付けや役割がより明確になり、全教師による一貫性のある道徳教育が組織的に展開していくことが可能になる。作成に当たっては、以下の点に留意した。

- ① 校長の方針の下に道徳教育推進教師を中心として、道徳教育推進のために全教師の協力・指導体制を整える。
- ② 道徳教育や道徳の時間の特質を理解し、教師の意識の高揚を図る。全教師が道徳教育や道徳の時間の特質を理解できるように、授業公開を通して、お互いに研鑽できるように働きかける。
- ③ 学校における課題を明らかにし、道徳教育の重点目標や各学年の指導の重点を明確にする。
- ④ 家庭や地域社会、近隣の幼稚園や保育所、小・中・高等学校、特別支援学校、関係機関、企業などとの連携を心掛ける。保護者や地域の人々の意見に耳を傾け、参加や協力を得るため道徳教育の推進会議などを組織する。

3. 別葉（詳細別紙2参照）

校長の方針の下に、道徳教育推進のために全教師の協力・指導体制を整えていく一助として、道徳の年間指導計画とは別に、別葉を作成することが大切である。桑園小学校では、『共に生きる力を育む学校文化の創造』という学校経営の基本理念に則って「生命尊重」を重点目標としている。

別葉を作成することにより、道徳と各教科、領域との繋がりが明確になり、教師間の共通理解が以前よりも図られた。学校の教育活動全般に、より意図をもって教育活動を推進していくことができるようになった。

4. 年間指導計画（詳細別紙3参照）

年間指導計画は、段階に即して計画的、発展的に行われるように組織された全学年にわたる年間の指導計画である。具体的には、児童の実態や多様な指導方法等を考慮して、学年段階に応じた主題を構成し、この主題を年間にわたって適切に位置付け、配列し、学習指導過程等を示すなど授業を円滑に行うことができるようにする計画である。

年間指導計画は、特に次の3点において重要な意義をもっている。

- ア 6年間を見通した計画的、発展的な指導を可能にする。
- イ 個々の学級において道徳科の学習指導案を立案するよりどころとなる。
- ウ 学級相互、学年相互の教師間の研修などの手掛かりとなる。

年間指導計画は、各学校において道徳科の授業を計画的、発展的に行うための指針となるものであり、各学校が創意工夫をして作成するものである。

特に次の内容を明記しておくことが必要であるとされている。

- ア 各学年の基本方針
- イ 各学年の年間にわたる指導の概要
 - (ア) 指導の時期
 - (イ) 主題名
 - (ウ) ねらい
 - (エ) 教材
 - (オ) 主題構成の理由
 - (カ) 学習指導過程と指導の方法
 - (キ) 他の教育活動等における道徳教育との関連

なお、道徳科の指導の時期、主題名、ねらい及び教材を一覧にした配列表だけでは年間指導計画としては機能しにくい。そのような一覧表を示す場合においても、学習指導過程等を含むものなど、各時間の指導の概要が分かるようなものを加えることが求められている。

さらに、年間指導計画を活用しやすいものにし、指導の効果を高めるために、特に創意工夫し留意すべきこととして次のことが挙げられる。

- (1) 主題の設定と配列を工夫する
- (2) 計画的、発展的な指導ができるように工夫する
- (3) 重点的指導ができるように工夫する
- (4) 各教科等、体験活動等との関連的指導を工夫する
- (5) 複数時間の関連を図った指導を取り入れる
- (6) 特に必要な場合には他学年段階の内容を加える
- (7) 計画の弾力的な取扱いについて配慮する

以上のようなことに留意しながら、各学年が道德教育を推進するにあたって困惑することのないように、毎年複数の目で見直しを図っている。

道德科の主題は、指導を行うに当たって、何をねらいとし、どのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示すものであり、「ねらい」とそれを達成するために活用する「教材」によって構成されている。本校では、道德の時間が道德教育の要の1時間になっていることを端的に表すために、道德の時間と各教科とのつながりや1時間1時間の道德の時間のつながりを主題構成図として表してきた。

また、他校では、年間指導計画を拡大して先生方が見やすい場所に掲示し、常時進捗状況を把握したり、再構成案を示したりしていく取組を行っている学校もある。各先生の理解を得ることが大切であるが、本校でも導入を検討している。

5. 道德科の評価について

平成28年の7月22日に、道德教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議から『「特別の教科 道德」の指導方法・評価等について』報告があった。本校では、その報告に書かれていることを基に、評価について考えている。報告では、道德教育の要の時間としての道德科は、

- ① 道德教育としては取り扱う機会が十分ではない内容項目に関する指導を補う。
- ② 児童生徒や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深める。
- ③ 内容項目の相互の関係を捉え直したり発展させたりすることに留意して指導する。

と、述べられている。

また、これまで別々だった道德教育と道德の時間の目標を一つにまとめて、「よりよく生きるための道德性を養う」となった。その上で、道德科の目標は、「道德的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育

てる」と規定された。因みに、この「道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」という表現は、報告書の中であらゆる項目において幾度となく述べられており、今回の報告の骨子であり、重要視されている表現であることが明らかである。

本校では、規定された内容を基に、本校では道徳科の学習を構築していく際には、

- ① ねらいとしている道徳的価値理解は図られるように想定されているか。
- ② 自己を見つめることができるように、工夫しているか。
- ③ 多面的・多角的に考えることができるような発問をしているか。
- ④ 自己の生き方についての考えを深めることができるように配慮しているか。

という4つの点で見直しを図っている。ただし、4つの観点が必ずしも常に独立して含まれていると押さえているわけではなく、節で区切ることができない位に重なり合っていると考えている。特に、②と④については、自我関与の観点から考えて双方とも大切であるが、表出される言葉としては似てしまう傾向があり、個の内面を詳しく掘り下げて捉えない限り、違いが明確になりづらいと現段階では考えている。今後も実践を重ねながら、検証を続けていく必要を感じている。

また、ねらいによっては、①～④において軽重があると考えている。ねらいを達成していく過程において、①～④のどの要素が大切になるのかをきちんと想定しておくことが大切である。さらに、①～④と番号が付いているものの、授業において、順序性はないと考えている。

以上のことを鑑みて、本校では、指導案に以下の2点について評価の観点を記すこととした。

- ① 中心発問において、多面的・多角的な理解がなされていたか。
- ② 自分と関係して、考えることができていたか。

従来であれば、1時間の授業において2つの評価の観点を設けることは、授業者が評価にばかり気をとられてしまう傾向が強くなるので、敬遠されてきた。だが、敢えて2つの観点を示していくことによって、今後の道徳科の授業の可能性を模索していきたいと考えている。

6. 研究のまとめ

授業アンケート	そう 思 わ な い			そう 思 う
1. みんなで話し合いながらの道徳は楽しかったですか。	1	2	3	4
2. なるほどと思うことや新たな気づきなどありましたか。	1	2	3	4
3. 資料の登場人物の気持ちになって考えたり、友達の意見を聞きたくなったりしましたか。	1	2	3	4
4. こんなふうになりたいなあという目標やあこがれをもつことはできましたか。	1	2	3	4
5. 今までの自分のことを見つめたり、これからの自分のことを考えたりすることはできましたか。	1	2	3	4

・感想や考えたことなど

【図1】

栄東小学校の田澤実践では、授業の終盤に図1のような授業アンケートを実施していた。このアンケートは、1～4の数字から1つを選んで○印を付ける方式のアンケートである。そんなに時間をかけずに実施することができるので、児童が自分自身の学びを振り返る際に有効な手だてである。こういったアンケートは、継続して取り組んでいくことによって、児童が自分自身の道徳科の授業への参加状況について、前の時間との繋がり等を考えながら振り返ることを助長する。「感想や考えたことなど」の欄には、自分を振り返ったあとに、特に心に残っていて語りたい内容が綴られるに違いないと考える。ただ、数字を評定のように捉えることは危険である。どの数字に○を付けたのかは、個々の児童の全くの主観であって、何ら客観性をもたないからである。授業中に、道徳的にすばらしい内容の発言をしていて他者から見れば4だとしても、謙虚な子であれば4に○を付けない可能性がある。また、逆にさほど深まっていなくても、どんどん4に○を付けることもあると考えられる。その子の中でどうだったのかという視点で、アンケートを参考にする姿勢が求められると考える。

記述して振り返りを書かせる場合には、学年発達や学校での方針によって、ノートを用いるのか毎回ワークシートを用いるのかに分かれると考える。ただ、教科化に伴い、道徳の評価の重要性が増していくことを考えると、どちらかの方法で児童の見方や感じ方、考え方を捉えていく営みが必要である。

ワークシートには、絵を入れたり書く文量を調整したりと、毎回工夫できるよさがある。ただ、毎時間新たに印刷をする必要があるのと、上手く保管しておかないと児童が紛失してしまう傾向がある。ノートには、ワークシートに比べて紛失する危険が少ないよさがある。本校では、大学ノート（罫線の数等は児童の実態に合わせる）を、90°右に傾けて縦書きに

なるように使うことを推奨してきた。見開きの状態で、上の頁には板書の必要な部分を書き写し、下の頁には授業後の振り返りを書くスペースとして空けておくように指示していた。書く内容は、授業のねらいに合わせて「～さんに手紙を書こう」と書く内容を絞って書かせたり「授業を通じて考えたことは？」と、広く書かせたりしている。

○振り返ってみよう

ぼくが ミリエル司教だったら まず、家にとめてあげないし、たとえば家にとめてあげて、銀の食器をとられたら、さっさと、ミリエルの事とにくみと思っから、ミリエル司教はすごい心の広い人だと思っ。なるほど、自分と比べて司教のすまがわかったね。

【図2】

子どもの心を育てていく上で、書かれた内容について教師がきちんとコメントを書いて返すことが重要である。図2は、「銀の燭台」（美香保小6年生…北山実践）の振り返りに書かれた内容である。この児童は「自分がミリエル司教だったら…」と、登場人物に自分自身を重ね合わせて考えていることがよく分かる。そうして比べて考えた結果、ミリエル司教の心の広さを改めて感じたのだと思う。このことは先に述べた道徳科で大切にすべき4つの内容のうちの「自己を見つめている」に合致していると考えられる。そんな児童の記述に対し教師は、「なるほど」と、肯定的に受け止めたあとに、自分と比べて考えていることを受け止め、温かく褒めている。このコメントを読んだ児童はきっと、「自分と比べて考えることってよいことなんだ」と考え、今後もそうしていこうとする気持ち高まっていくと考える。

○テーマについてみんなで話し合った感想

自分が考えていなかたような意見があつておもしろかつた
です。主人公の「わたし」の心の動きはすごい大
七刀だなと思いました。なぜかという、みんな
で一つの方向に向かていくのは素晴らしいことだ
けれど、その向かていくという気持ちが大七刀
だと思いました。1人1人参加し、全員で
協力していきたいと思いました。
その向かていく気持ち、見え子と勇気が出てくるよね！ どうやって出てくるかな...

【図3】

みんなで作らなまわいけなことを人任せにするのはダメなことだ。やるからには全員でやたほうか、達成感が感じられると思いました。全員でやるために...一人一人のがんばりが大切なんだ!
これからは、1人2人でがんばるのではなく、クラスを以て学年全員で協力していきたいです!!
引、はられるよりは、自分から、何事にも挑戦して仲間を引はらっていきけるようにしていきたいし
いつもがんばっているのだから...まじ大丈夫!!

【図4】

図3と図4は、『「あの日の私」と「今の私」』（新陵東小6年生…増井実践）の振り返りである。図3からは、道徳の時間の学習を経て「みんなで1つのことに向かっていくのは難しいことだけれど、向かっていこうとする気持ちが大切だ」「全員で協力していきたい」という思いになったことが読み取れる。「自分は協力していく」ではなく「全員で」と考えているところが、卒業に向けての取組が本格化していく前の6年生としての意識の高さが表れている。それに対し教師は、「あなたが考えていることを見えるようにして、仲間に伝えていくのにはどうしたらいいかな」と、問いかけている。教師は、この文を書いた子ならきっと自分で答えを見つけられるだろうと予想して、敢えて細かく指示を出すようなことはしていない。信頼して、委ねていることから、教師と児童のつながりの深さが伝わってくる。

図4では、書いた子のこれまでの取組に対して「いつもがんばっているのだから大丈夫!!」と、思いっきり背中を押している。短い文ではあるが、このコメントを読んだ子が、どれだけたくさんの勇気をもったのか計り知れないのである。

また、この授業実践を含む数時間でしっかりと主題が構成されていて、この学級の学級目標である「一致団結」に密接に関わっている。児童の実態を捉えた教師が「こんな子どもに、こんな学級に育てたい」という願いをもって日々子どもと接していることがよく分かる取組である。

特別の教科道徳になり、どの学級でも道徳の学習が実施されるようになるであろう。恐らくは、通知表や要録に道徳について記述する欄が増えて、教師の誰もが道徳の評価に直面すると思われる。けれども、評価の方法ばかり気にしては、いずれ形骸化することを危惧している。原点は、教師が児童の成長に対してしっかりと願いをもつことだと考える。教

師が願いをもっていけば、道徳科の授業中でなくても、学校の教育活動のいたるところで、児童に対してノンバーバルな形で伝わっていくと考える。心を育てるのには積み重ねていくことが肝要であり、土に水がしみこんでいくごとく時間はかかる。児童の健やかな心の成長を願わない教師は、いないはずである。道徳科のねらいを踏まえた上で、児童の心の成長に期待感をもって、目の前の子どもたちに対する活動の一つ一つにねらいをもって臨んでいくことが、今まで以上に求められると考える。常日頃から児童と真摯に向き合う教師にとって、最も心を育てるのに適している、大きなチャンスが道徳科の時間であると考えます。

道徳教育の全体計画

児童の実態

- ◇ 明るく素直
- ◇ 協力し助け合う
- ◆ 指示待ち
- ◆ 道徳的実践力低下

保護者の願い

- よさの伸長
- 創造性、自主性の育成
- 学力の伸長

学校教育目標

- たくましく…強い意志と丈夫な体をもつ子
- なかよく…互いに助け励まし合い、心を合わせる子
- かしこく…豊かな価値を求め、自ら学ぶ子
- あかるく…明朗で、生き生きした子

《重点目標》
「生きる力」をはぐくむ教育の創造

札幌市学校教育の重点

- 学ぶ力の育成
- 豊かな心の育成
- 健やかな身体の育成
- 信頼される学校の創造

<今日的な課題>

- ・人間尊重の教育・特別支援教育
- ・環境教育・国際理解教育
- ・情報教育・福祉、健康教育

<札幌らしい特色ある教育>

- ・雪
- ・環境
- ・読書

特別活動における道徳教育

集団の一員としての自覚を高め、協力してよりよい生活を築こうとする態度を育てる。

学級活動 学級や学校の生活づくり、日常の生活や学習への適応、健康安全

児童活動 集団の一員としての役割・責任と協力

クラブ活動 創意ある活動への向上意欲、協調性

学校行事 集団の中での個人の在り方、協力・責任、勤労などの重要性の認識

道徳教育の目標

- よく考え、自分の力で判断し、約束やきまりを守って行動できる子どもを育てる
- 相手のことを思いやり、互いに協力し合って、進んで仕事ができる子どもを育てる
- 生命を尊重し、自然環境や社会福祉などに目を向け、これらを大切にすることを育てる

「生きる力」の核となる
「豊かな人間性」

- ◇ 美しいものや自然に感動する心
- ◇ 正義や公正さを重んじる心
- ◇ 生命を大切にし、人権を尊重する心
- ◇ 他人を思いやる心や社会貢献の精神
- ◇ 自立心 自己抑制力 責任感
- ◇ 他者との共生や異質なものへの寛容

各学年における指導の重点

低学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ よいと思うことを進んで行い、のびのびと生活すること ○ 友達にあたたかい心で接し、仲よく助け合うこと ○ 生命を大切にすること ○ みんなのことを考え、約束やきまりを守ること
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ よく考え、正しいと思うことをやり遂げること ○ 思いやりの心を持ち、友達と互いに信頼し合うこと ○ 自然のすばらしさや生命の尊さを受け止め、大切にすること ○ 約束やきまりを守り、公德心をもって行動すること
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分で目標をたて、誠実に勇気をもって努力すること ○ 相手の立場に立ち、互いに理解し合い信頼し合って向上すること ○ 生命の尊厳を自覚し、人間の力を超えたものへの畏敬の念をもつこと ○ 公德心を持ち、公平公正な心で正義の実現に努めること ○ 社会に奉仕するよろこびを知り、公共のために努力しようとする

総合的な学習の時間

豊かな体験活動を生かし、自ら課題を見つけ、解決する態度を育てる。

- ◇ 問題解決的な学習
- ◇ 自然体験活動
- ◇ 社会体験活動
環境問題、福祉・健康
国際理解、情報
- ◇ 自己の生き方を考える

各教科における道徳教育

各教科の目標達成のなかで、課題をやりぬく態度、自ら学ぶ姿勢、協力し、学び合う姿勢を育てる。

国語 表現力、豊かな感性

社会 郷土を愛する心、
公民的な資質

算数 合理性、論理性

理科 科学的な思考、
生命尊重、自然愛護

生活 人や自然を愛する心

音楽 豊かな感性

図工 豊かな情操、創造性

家庭 生活の見直し、
家族への敬愛

体育 健康・安全、
集団のルール

外国語 国際理解、
日本人としての自覚

道徳の時間

児童が、ねらいとする道徳的価値を自分の課題として受け止め、豊かに感じ、生き生きと表現して、よりよく生きようとする意欲を自ら育むような時間を旨とする。

- 共感的な理解を軸とし、葛藤を生む授業の工夫
- 友達と高め合い、自己を見つめる場を大切に授業
- 道徳的実践力を育成する授業
- 「私たちの道徳」の活用

教育環境の整備

- 児童と教師、児童相互の望ましい人間関係づくり
- 言語環境の改善、充実
- 校舎、校庭の美化、地域清掃
- 道徳資料の整備

豊かな体験

- 交流体験、ボランティア活動
- 自然体験
- 文化芸術体験
- 集団宿泊活動
- 職場体験活動

家庭・地域等との連携

- 保護者、地域からの人材活用
- 地域連絡会、育成委員会
- 学校、学年、学級だより
- 地域公開型授業
- 地域行事への参加

※各教科等における生命尊重にかかわる指導の内容及び時期の例を示したものである。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
国語	『あめ玉』の学習では、おさむらいさんの行動の真意を探る活動を通して、優しさについて考えを深める。	『生き物は円柱形』の学習を通して、生き物の体のつくりについて知識を深め、生命に関心をもつ。	『本は友達』の学習で伝記にふれる中で、描かれた人物の生き方や考え方について考え、自分の生き方についても思慮を深める。		『明日をつくるわたしたち』の学習では、身の回りの問題について話し合う活動の中で、様々な意見や価値観があることを知り、互いに尊重しようとする心情を養う。		
社会	『わたしたちの国土』の学習で、様々な環境で暮らす人々の生活の工夫について学ぶことを通して、どのような環境下でも一生懸命に生きている人たちの存在を知る。			『わたしたちの生活と食糧生産』の学習を通して、自分たちの生活には命をいただくことが欠かせないことを再認識するとともに、生産者の努力や苦労にもふれ、感謝の念をもつ。また、働く人々の高齢化の問題から、命のつながりについても見識を深める。			
算数	～ 立式に際して筋道を立てながら考えていく活動を通して、行為の先にある結果を予見する力を養う。～						
理科	『発芽と成長』の学習を通して、植物の命が受け継がれていくことを学び、植物に愛着を感じ、その命を大切にしようとする心情を深める。	『メダカの誕生』の学習では、実際にメダカを飼育し、動物の発生や成長について学ぶとともに、生命を尊重する態度を育てる。	『人の誕生』の学習を通して、人の母体内での成長について知るとともに、生命の連続性についても考えをもち、生命を尊重する態度を育てる。		『花から実へ～受けつがれる生命～』の学習を通して、生命の連続性について考えをもち、生命を尊重する態度を育てる。		
音楽	～ 友達と一緒に歌ったり、演奏したりする活動を通して、友達と一緒に明るく生き生きと生きていこうとする意欲を高める。～						
図画工作	『くねくね糸のコパズル』『糸のこすすい』の学習を通して、板が元々生きていた木の一部であることにふれて、材料を大切に扱うこととともに、木そのものの命をも大切に思う心情を養う。						
家庭	『わたしと家族の生活』の学習を通して、家族の一員として、自分の力を精一杯発揮しようとする態度を培う。			『やってみよう家庭の仕事』の学習を通して、家族の一員として、さらに自分の力を精一杯発揮しようとする態度を培う。			
体育	『心の健康』の学習を通して、心と体のつながりについて学び、健やかに生きていくためには心の健康も大切であることに気付く。			水泳学習でパディ(二人一組)を決めて指導する際に、命を守ることの大切さにふれながら、生命尊重の精神を養う。			
総合	地域の安心・安全マップ作りを通して、身の回りにある危険箇所を留意するとともに、自分の命を大切にしようとする心情を深める。						
特別活動	避難訓練① 避難する際の心得を、生命尊重の精神を基盤として指導することを通して、生命尊重の精神を養う。(同様に年に5回程度実施)		遠足の道中や行く先での安全について話し合う活動を通して、かけがえのない命を大切にしようとする心情を養う。		『給食について考えよう』の学習を通して、「いただきます」のももとの意味にふれて、生命あるものを大切に思う心情を深める。		
地域との関連	スクールガードの方々のお話を聞く活動を通して、安全に気を付けて登下校しようとする意欲を高める。		マイタウン・マイフラワー活動等に参加することを通して、植物を大切に思い、植物の命を守っていこうとする意欲を高める。		地域の行事に積極的に参加することを通して、地域には様々な人が住んでいることを知るとともに、その方々を大切に思う心情を養う。		

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	『大造じいさんとがん』の学習で、大造じいさんの人物像について考える学習を通して、生物に対しても尊敬の念をもつことのできる考え方を学ぶ。	『伝記を読んで自分の生き方について考えよう』の学習を通して、「五兵衛」の生き方について考えながら、自分の生き方についても考えを深める。			『わらぐつの中の神様』を学習する中で、親から子、子から孫へという“つながる命”についての意識を高める。	
社会	『わたしたちの生活と工業生産』の学習を通して、日本には独自の技術をもった職人が多くいることを知るとともに、職人がもてる技術を存分に発揮して世界に注目されていることに誇りをもつ。	『情報化した社会とわたしたちの生活』の学習を通して、医療や防災など、人々の命を守るために数多くの人が関わり、様々な最新の技術が活用されていることを知る。			『わたしたちの生活と環境』の学習を通して、人々の命や健康を守るために、国や道や市が様々な政策を施していることを学ぶ。	
算数	～問題を解いていく際に、他者の考え方や誤答を肯定的に受け止めていく姿勢が、他者の存在や命を見つめていく素地となる～					
理科	『台風接近』『天気の変化』の学習を通して、自然に対する畏敬の念を深めるとともに、自他の命を守るためには、自然事象に関する知識も必要であることを知る。		『冬の天気』の学習を通して、落雪や雪崩といった命の安全にかかわる事象についても考えを巡らせ、命を守るために必要な行動についても考える。			
音楽	『赤とんぼ』を歌う活動を通して、動物の命を大切に思う心情が深まることを助長する。		『子もり歌』についての学習を通して、地域に伝わる伝統やよさについて学ぶとともに、子の命を大切に思う親の心情に思いを馳せる。			
図画工作			『刷り重ねて表そう』の学習を通して、板に何度も触れながら、材料を大切に扱うこととともに、木そのものの命をも大切に思う心情を養う。			
家庭	『食べて元気に』の学習を通して、健康な生活を送るためには栄養のバランスが大切であることを知るとともに、自分の体を大切にしようとする心情を培う。		『寒い季節を快適に』の学習を通して、快適で健康な生活を送るためには寒さに負けない暖かい着方が大切であることを知り、自分の体を大切にしようとする心情を培う。		『家族とほっとタイム』の学習では、家族とのふれ合いや団らんの計画を立て、実践するとともに、家族への感謝の気持ちをもつ。	
体育		『ケガの防止』の学習を通して、身近な所に危険があることを知るとともに、自分の体を大切にしようとする心情を深める。				
総合			『フードリサイクル』の活動を通して、野菜等の命をいただいていることに目を向け、大切にしようとする意欲を高める。			
特別活動	風邪を引かないように予防することの大切さについて考える活動を通して、自分の健康や命について考え、大切にしようとする意欲を高める。		「いじめ調査」に協力する活動を通して、いじめを許さない態度とともに、自他の命を大切にしようとする意欲を高める。			
地域との関連	地域の防災訓練に参加することを通して、生命の大切さについて、地域の方々から学ぶ。		戦争体験者から話を聞いたり昔の生活についてお年寄りから聞いたりする活動を通して、昔の人が必死に生きていこうとしていたことを知り、自分の生について考えを深める。		地域行事に参加することによって、地域に支えられていることを実感するとともに、共に生きる喜びを感じる。	

5年生の年間指導計画（案）

月	【主題名】・資料名	ねらい	指導要領との関連	資料類型	【私たちの道徳】との関連
4月	[気持ちのよい習慣] 1. 父がぼくに教えたかったこと	きまりよい生活が自分を成長させることに気づき、進んで自分の生活を改善しようとする態度を養う。 【主な発問例】 ○家でも学校でもくつそろえのことを言われた誠也は、どんな気持ちになったのだろうか。 ○ぬぎ捨てられた自分のくつを見ている誠也は、どんなことを考えているのだろうか。 ●父に笑顔で話しかけられ、誠也の心の中には、どのような気持ちや考えが広がったのだろう。 ○これからは、どのようなことを心がけて生活していこうと思うか。	1-(1)生活習慣、思慮・反省、節度・節制	生活文	P.13を〈導入〉で参照する。 〈終末〉で、P.15・16を活用する。
	[希望をもって] 2. メジャーリーガー・イチロー	より高い目標を立てて、困難や失敗にくじけずに、希望をもって一步一步努力しようとする意欲を育てる。 【主な発問例】 ○3年生のとき、父と練習を続けていたイチローは何を思っていたのか。 ●イチローがアメリカン・リーグで最優秀選手になれたのは、なぜだろう。 ○イチローのように、自分の目標に向かっていくために大事なことは、どんなことだろう。	1-(2)希望、勇気、不撓不屈	伝記	〈事前指導〉か〈導入〉で、P.18・19を参照する。 〈展開後段〉で、P.26・27を活用する。
5月	[自分らしく輝いて生きる] 3. 心の中の龍	自分の心に潜むよさと課題に気づき、自己統制を深め、自分らしく輝いていきようとする態度を育てる。 【主な発問例】 ○人間にとって「本当の幸福」とは、どのようなことだろうか。 ●自分の心の中の龍を鍛えることは、なぜ大切なのだろうか。 ○自分らしく輝くとはどういうことだろう。『心のノート』の「わたしらしさってなんだろう」を見て考えてみよう。	1-(6)向上心、個性伸長	ドキュメンタリー	〈終末〉でP.52を参照し、P.53を〈事後指導〉に生かす。
	[みんな同じ人間] 4. 愛の日記	だれに対しても差別や偏見をもつことなく、公正・公平に接しようとする態度を育てる。 【主な発問例】 ○父からリャンちゃんのことを尋ねられたとき、だまっただまだった愛は、どんな気持ちだったか。 ●愛がリャンちゃんに声をかけることができたとき、どんなことを考えたか。 ○身近にある差別やいじめをなくすには、どうすればよいか。	4-(2)公正・公平、正義	物語	
	[思いやりの心] 5. 台湾からの転入生	相手の立場に立って考え、思いやりの心をもち温かく親切に接しようとする気持ちを育てる。 【主な発問例】 ○みどり「なんでも聞いてね。」と声をかけたのは、どんな思いからか。 ○ケイからの手紙の内容を聞いて、みどりはどんなことを考えたか。 ●先生の言葉に、みどりがはっとしたのはどう思ったからか。	2-(2)思いやり・親切	生活文	〈展開後段〉でP.62・64を生かす。
	[だれもが大切な人ばかり] 6. わたしはひろがる	だれに対しても差別することや偏見をもつことなく、公正・公平に接しようとする心情を育てる。 【主な発問例】 ○分けて分量が減っても、なんとなく楽しく感じているのはどうしてか。 ○「わたしの中へ 友だちが入ってきた。」とはどういうことだろうか。 ●他人をさげすんでいて、自分の方が間違っていることがあったら、そのときにはどんな気持ちになったか。	4-(2)公正・公平、正義	詩	〈終末〉で、P.135を生かす。
6月	[おたがいを大切にしながら] 7. 言葉のおくりもの	互いに信頼し、男女仲よく協力し助け合おうとする心情を深める。 【主な発問例】 ○からかわれて憂鬱な一郎と、平気で明るいすみ子の気持ちを考えてみよう。 ●すみ子が胸を張って「ことばのおくりもの」を読むのを聞いて、たかしはどんな気持ちになったか。 ○男女が仲よく協力し合うことが、どんなに気持ちがいいか考えてみよう。	2-(3)友情・信頼、助け合い	生活文	〈終末〉で、P.75を参照する。
	[とうとい命] 8. 母とながめた一番星	生命の尊さを理解し、生命を大切に力強く生きようとする態度を育てる。 【主な発問例】 ○心配そうな母の声を背に、家を飛び出したときの恵子の気持ちはどんなか。 ●「あなたは家族みんなの大切な希望」と言う母の話聞いて、恵子はどんなことを感じたか。 ○自分も同じように大切にされている、と感じるのはどんなときか。	3-(1)生命尊重	生活文	
	[自然を壊してはならない] 9. もったいない	人間も自然の中で生かされていることを考え、自分にできる範囲で自然環境をよりよくしようとする態度をはぐくむ。 【主な発問例】 ○私が子どもの頃、祖母から「もったいない」と言われていたときの気持ちはどんなだろう。 ○地球温暖化等の環境問題について、私はどんなことを考えているのだろうか。 ●マータイさんが広めた「もったいない運動」のことを、私はどのように受け止めているのだろうか。	3-(2)自然愛、環境保全	生活文	P.111を〈事後指導〉に生かす。
7月	[自然を大事にする] 10. チョモランマ清掃登山隊	自然の偉大さを理解し、自然との共存のあり方を積極的に考え、自分にできる範囲で自然環境をよくしようとする心育てる。 【主な発問例】 ○チョモランマはアジアの最高峰だから、アジア人の手できれいにしたいという思いになったのは、どんな気持ちからか。 ●自分たちが清掃していたのと同じ時期に、別の登山隊がごみを捨てていたのを知っても清掃登山を続けようと考えたのは、どんな思いがあったからか。 ○なぜ日本人は富士山をごみの山にしてしまったと思うか。 ○道路（公園、海など）にごみを捨てたり、拾ったりしたときどう思ったか。	3-(2)自然愛、環境保全	ノンフィクション	P.112を生かし、〈総合的な学習〉との関連を図る。
	[きょう土を愛する心] 11. わたしの心のアルプス	郷土のもつ美しさへの感謝を大切にし、郷土の美しさを再発見し郷土を愛する心情を育てる。 【主な発問例】 ○ハイジの質問に答えたアルムのじいさんの言葉をどう感じるか。 ●日本アルプスの夕焼けの美しさに感動した「わたし」は、生まれ故郷の長野県伊那谷を、どのような思いで見ているか。 ○自分の故里や日本が自分にとって大切なのはなぜか。	4-(7)郷土愛、愛国心	エッセイ	
	[地域の人々の思いに気づいて]	日常の生活が、たくさんの人々の思いによって支えられていることに気づき、その思いに応えようとする態度を養う。	2-(5)尊敬・感謝	生活文	

	12. スクールゾーン	<p>【主な発問例】</p> <p>○スクールゾーンができたときの話を聞いて、孝はどんなことを思いましたか。</p> <p>●杉山さんの話を聞いた孝は、今後行われる集会についてどんな思いを強くしたでしょう。</p> <p>○人のお世話になっていると考えられることを見つけてみよう。</p>			
9月	[誰もが共有できる永遠の喜び] 13. ギブ・キッズ・ザ・ワールド	汗をかいて働くことの喜びをあらためて見つめ直し、公共のために役立とうとする心情を育てる。	4-(4) 勤労、社会奉仕、公共心	生活文	P. 152 を〈導入〉で参照する。 P. 154・155 を〈終末〉に生かす。
	[本当の美しさ] 14. 美しいお面	崇高なものを貴び、真に美しく清らかなものに心を向けていく態度を育てる。	3-(3) 敬虔	名作物語	
	[みんなの力で] 15. 森の絵	身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して責任を果たすことの大切さを自覚させる。	4-(3) 役割と責任の自覚	生活文	
	[せい実な心] 16. 手品師	常に、誠実で明るい心を持って行動しようとする心情を育てる。	1-(4) 誠実・明朗	物語	P. 38・39 を〈導入〉で参照する。
10月	[かけがえのない命] 17. 命	生命のかけがえのなさを知り、進んで自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。	3-(1) 生命尊重	ノンフィクション	P. 100～103 を〈展開後段〉〈終末〉で生かす。
	[創造的に挑む] 18. 君の声が聞きたい	真理を求めて、工夫を凝らし、よりよい生活を築いていこうとする態度を育てる。	1-(5) 創意・進取	ノンフィクション	P. 45 を〈終末〉に生かす。
	[心のあたたかさにふれて] 19. 思いもよらぬできごと	だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。	2-(2) 思いやり・親切	エッセイ	
11月	[望ましい生活習慣を築ける人々に] 20. 「早起きは三文の徳」の意味は？	日々の生活を維持していくことの大切さに目を向け、望ましい生活習慣を積極的に築いていこうとする心情を養う。	1-(1) 生活習慣、思慮・反省、節度・節制	生活文	〈事後指導〉で P. 14～16 を生かす。
	[家族のきずな] 21. ○△□の中のわたし	家族間の信頼と強い絆に気づき、家族の幸せのために役立ちたいと思う心情を育てる。	4-(5) 家族愛	生活文	P. 158・159 を、〈事後指導〉で生かす。
	[つながり合う心と心] 22. あいさつって、すごい	時と場を弁えた礼儀作法について理解を深め、相手の立場に立ち真心をもって接していこうとする態度を育てる。	2-(1) 礼儀	エッセイ	
	[わが国の文化を愛する心] 23. もう一つの塔	我が国の文化と伝統の意義をとらえ、それを守り伝えることを通して、国を愛する心を育てる。	4-(7) 郷土愛、愛国心	ノンフィクション	
	[広い心で相手のことを考えて] 24. 銀のろうそく立て	謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする心情を育てる。	2-(4) 寛容・謙虚	名作物語	

		<p>【主な発問例】</p> <p>○憲兵につかまって司教の所へ行くとき、ジャンはどんなことを思ったか。</p> <p>●司教は、どんな気持ちでジャン・バルジャンを許したのか。</p> <p>○欲にとらわれた人を見て、だれにもそういうところはあるな、と感じたことはないか。</p>			
12月	[自由ときりつある行動] 25. うばわれた自由	自由と規律ある行動の意義を理解し、自由を尊重し規律ある行動をしようとする態度を育てる。	1-(3) 自由・責任	物語	
		<p>【主な発問例】</p> <p>○ガリユーはなぜ、「だれであろうとゆるせません。」と言ったのか。</p> <p>○牢屋に入れられたジェラルは、どんなことを考えたか。</p> <p>●自分勝手なことをする自分と、したいことに負けないで頑張る自分とを、心の中で比べてみよう。</p>			
	[公共物を大切に] 26. まいごのカナリア号	社会生活をよりよくしようとする心の大切さを知り、法や決まりを守ろうとする。	4-(1) 公德心、規則の尊重、権利・義務	物語	
		<p>【主な発問例】</p> <p>○カナリア号を借りていく人びとは、どんな気持ちで借りていったのか。</p> <p>●カナリア号を返さない人やよごれたまま返す人がいても、取り決めをつくろうとしない父の気持ちを考えてみよう。</p> <p>○決まりを守る気持ちをもった自分と、守らない自分を想像してみよう。</p>			
	[国きょうをこえて] 27. ペルーは泣いている	外国の人々や文化を大切にすることを、世界の人々と親善に努めようとする心情を育てる。	4-(8) 国際理解・親善	ノンフィクション	
		<p>【主な発問例】</p> <p>○ペルーの選手がやめていったとき、監督のアキラはどんな気持ちだったか。</p> <p>●選手たちと頑張っていこうと思ったのは、アキラにどんな気持ちがあったからか。</p> <p>○外国の人びとと協力していくことのできる自分を想像してみよう。</p>			
1月	[尊敬しあえる関係] 28. 美德を守る人	外国の人々や文化を理解し、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努めようとする気持ちを育てる。	4-(8) 国際理解・親善	エッセイ	(終末) で P.178 を参照する。
		<p>【主な発問例】</p> <p>○お客さんが車の中に忘れたお金をすぐ届けに行った日系人の男性の行為を、どう考えるか。</p> <p>○食事をしたとき、メイン料理の代金が明細書からぬけていることに気づき指摘した日本人の行動を、どう考えるか。</p> <p>○フランス人の男性につり銭1円を走って行って渡したコンビニで働いている日本人女性の行為を、どう考えるか。</p> <p>●この三つの例のように、日本人の先人たちが大切にしてきたものについて、どう考えるか。</p>			
	[夢を近づける前向きな生き方] 29. その日まで、少しでも前向きに生きたい	計画的に努力目標を立てることの大切さに気付き、くじけずに希望をもって理想に向かって前進しようとする強い意志を育てる。	1-(2) 希望、勇気、不撓不屈	ノンフィクション	(終末) で P.18 を参照する。
		<p>【主な発問例】</p> <p>○米国から帰国して父を見た時、レナは自分の人生についてどのように考えていたか。</p> <p>○米国に戻ったレナに病気やけがの不幸が続いたとき、レナの胸の内はどんな気持ちが溢れていたか。</p> <p>○後遺症で悩んでいるとき、父がもし見ていたらどんな声をかけてくれるとレナは考えたでしょう。</p> <p>○父の誕生日にトリプルアクセルを決めることができたレナは父の遺影に何と声をかけるか。</p> <p>●ジョンさんに結婚してくれませんか聞いて、レナは自分の人生をどのように感じただろうか。</p>			
	[よいところをのぼそう] 30. 日本の「まんがの神様」	自分の長所を知って、それを伸ばしていこうとする心情を育てる。	1-(6) 向上心、個性伸長	伝記	
		<p>【主な発問例】</p> <p>○ノートに漫画をかくようになったとき、治はどんな気持ちだったか。</p> <p>●いじめ脱出のためにかいた漫画が才能を伸ばすきっかけになったことに、どんな感じをもつか。</p> <p>○自分の長所を見つけたら、どんな気持ちになるだろうか。</p>			
2月	[社会のためにできること] 31. 小さな手から	社会生活を支えるために、自分が役立っていこうとする心情を深める。	4-(4) 勤労、社会奉仕、公共心	生活文	
		<p>【主な発問例】</p> <p>○先生方がみんなのために働く姿を見て、ゆみ子はどんな気持ちになったか。</p> <p>●ゆみ子が、「わたし」にも手伝えることはないかと考えたのは、どんな気持ちからか。</p> <p>○自分が人びとの役に立つとしたら、どんな気持ちになるか。</p>			
	[相手の立場を考えて] 32. すれちがい	広い心で相手の立場を考え、自分と異なる意見も大切にしようとする気持ちを育てる。	2-(4) 寛容・謙虚	生活文	(終末) で、P.80・81のメッセージを生かす。
		<p>【主な発問例】</p> <p>○つんと横を向いたよし子を見て、えり子はどんなことを考えたか。</p> <p>●よし子もえり子も、相手が約束を破ったと思って怒っているのはなぜか。</p> <p>○「事情も知らずに勝手なことを言う。」と思ったときの気持ちを、考えてみよう。</p>			
	[家族のぬくもり] 33. わが家の思い出	父母を敬愛し、自分の役割を自覚して、家族のために進んで役に立とうとする心情を育てる。	4-(5) 家族愛	児童作文	
		<p>【主な発問例】</p> <p>○かぎのかかっている家に帰ったとき、「わたし」はどんな気持ちだったか。</p> <p>●父のぬくもりの中で眠る「わたし」は、どんな気持ちだったか。</p> <p>○家族がいてよかった、と思う気持ちを思い返してみよう。</p>			
3月	[母校を愛する心] 34. さざんかの花	生き方の土台づくりに影響をもつ母校の意義をとらえ、先生や学級の友達への敬愛の心を育てる。	4-(6) 愛校心	生活文	
		<p>【主な発問例】</p> <p>●長い間ごぶさたしていた故里の母校を、一年生のわが子をつれて訪ねた「わたし」は、そこでどんなことを考えたか。</p> <p>○母校に送ったさざんかが大切にされているのを知り、「わたし」は、どんなことを考えたか。</p> <p>○先生や学級の友だちに愛着心をもつのはどんなときか。</p>			
	[感謝の心] 35. おじいさんのあたたかな目	日ごろからお世話になっている人々に、感謝の気持ちをもつことのできるような心育てる。	2-(5) 尊敬・感謝	エッセイ	
		<p>【主な発問例】</p> <p>○「小さな親切、大きなお世話だ！」と心の中でつぶやいておじいさんを無視してしまった「ぼく」は、どんなことを考えていたのだろうか。</p> <p>○おじいさんの話を父から聞いて、「はっ」としたのは、「ぼく」が何に気づいたからだろうか。</p> <p>●これまで多くの人たちに支えられてきたことを実感できた「ぼく」は、どんな思いでいるのだろうか。</p> <p>○自分のほうから声をかけてみようという気持ちをもった「ぼく」は、どんなことを考えているのだろうか。</p>			

※内容が変更になる場合があります。